

適正な温度管理を！

小・中学校の教室

(リベラル西条)

問

近年、夏場の気温上昇に伴い、小・中学校の教室の温度管理が課題になっている。落ちついて授業が受けられる環境づくりについて、今後、いっそうの検討が必要と考えるが、普通教室の温度管理は、どのように行っているのか。

答

夏の平均気温は、毎年、上昇傾向にあり、室温が30度を超える日も多くあることから、児童・生徒が熱中症にかかる危険性に加え、学習効果や意欲の低下が心配されている。学校施設は、児童・生徒の学習生活の場であり、良好な環境の確保と環境の変化に応じた対応が重要であり、エアコンなどの設置の必要性はじゅうぶん認識している。しかし、全小・中学校の普通教室などにエアコンを設置するには多額の費用を要し、財源の問題も含めて慎重に検討する必要があると考えている。

現在、全小・中学校に、ミストシャワーや扇風機を設置する

ほか、熱中症の注意レベルを計る環境管理温湿度計を設置し、常に普通教室などの環境条件を把握するよう努めている。今後とも、猛暑に対する更なる対策が必要であることから、国の動向も注視しながら、教育環境の整備について積極的に検討を進めたい。

えひめ国体に向けた

選手の競技力向上を！

(リベラル西条)

問

平成29年にえひめ国体の開催が予定されているが、選手の競技力向上に向けた本市の具体的な取組について問う。

答

スポーツを通して次世代を担う青少年の健全育成と競技力の向上を目的に、平成17年度から次世代育成支援スポーツ事業を実施している。事業としては、対象年齢層に応じて、きつかけづくり、ステップアップ、競技力向上の3段階に体系化し、小学生の低学年を対象にしたスポーツイベントの実施、小学生の高学年を対象にした元トップアスリートや元プロ選手によるスポーツ教室の

開催、中学生を対象に、優れた指導者による年間を通じた継続的なトレーニングの実践を行っている。また、スポーツ教室・競技力向上継続トレーニングなどの事業や、全国大会などに出場するチームや個人に対する補助金の支給などを実施している。更に、えひめ国体競技普及促進事業や次世代育成支援スポーツ事業により、県内外の優れた指導者を講師に招いている。今後も、ジュニアアスリートを対象として、さまざまなスポーツ事業を展開することにより、選手の発掘・育成に努め、競技力向上につなげていきたい。



スポーツ少年団活動

どう進める？

ICT教育

(西条市民クラブ)

問

児童・生徒が歩きながら携帯電話を使用したり、インターネット依存となるなどの問題が生じている。児童・生徒の携帯電話などの使用状況は、どのようになっているのか。また、これらの問題にどのように対処していくのか。更に、今後ICT教育をどのように進めていくのか。

答

平成24年12月実施の調査によると、携帯電話の所持率は、小学校5年生が21パーセント、6年生が23パーセント、中学校1年生が25パーセント、2年生が30パーセント、3年生が37パーセントである。携帯電話以外でインターネットが利用できる自分専用の機器を所有している児童・生徒は70パーセント前後になっている。

また、児童・生徒の携帯電話などの利用を巡っては、日常的にも悪影響を与える携帯電話依存などの問題が心配されており、携帯電話などの正しい使い方や



電子黒板を授業に活用

情報モラルに関する授業を積極的に取り入れるとともに、保護者に対する啓発活動にも努めている。

更に、子どもたちの情報教育の充実は重要であり、分かる授業を行い、学力を向上させるためには、ICTが効果的である。ICTの有効活用により、情報活用能力や理論的思考力が高まり、主体的に学ぶ意欲を育むものと期待している。電子黒板などのICT機器を設置したモデル校の小学校では、日常的に機器の使用が可能となっており、電子黒板が授業への興味や学習の理解度を高めるための有効な手段であると感じている。今後、より具体的な効果などについて検証したいと考えている。